

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立子安保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

遊び空間

<テーマの設定理由>

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・砂場しかない園庭では、玩具籠やバケツ、シャベルなどを並べ、必死に自分のエリアを確保しようとする子どもの姿が見られる。・何もない園庭に自分や仲間との遊び空間を考え、子どもたち自身が「どんな場所で遊びたいか」「どんなものがあれば遊びが豊かになるか」アイデアを出し合う。また、空間を作る過程において、「どうすればもっと楽しくなるか」「こんな道具は使えるか」「材料を組み合わせてみたらどうだろう」と疑問をもち、解決しようとする経験の中で、とっておきの自分だけの遊び空間を作る機会としていく。 |
|---|

2. 活動スケジュール

8月～ 相談・話し合い
9月～ 必要なもの集め
10月～ 遊び空間作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・古タイヤ、ベニヤ板、タープ生地、タープ紐、樋、カラーボール、薄い丸太、積み木・環境設定の一つとして、大けがが起きないような約束事については保育者から話をしたが、細かいルールや遊び方については子どもに任せた。 |
|---|

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

古タイヤ、ベニヤ板、タープ生地と紐、穴の開いた板とカラーボール、雨どい、薄い丸太、細長い木の板を、時間差をつけて園庭に配置した。その際には、大きな怪我につながらないように、必要最低限のルールのみを伝えた。

子どもたちの発想や遊びの広がりを見守りながら、保育者は必要に応じて関わった。また、遊びの中で危険が想定される場面があった際には、その都度子どもと一緒にルールを話し合い、安全に遊べる方法を考えていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

古タイヤは、重ねて中に入る、つなげてアスレチックのようにする、板と組み合わせて橋に見立てる、机や囲いにして基地づくりをするなど、さまざまな使い方が生まれた。子どもたちは、自分で組み合わせ方を考えたり、試したりしながら、遊びを創り出していた。また、友だちが新しい使い方をしているのを見て真似し、そこからさらに新しい方法を考え出す姿も見られた。

タープは、最初は敷物のように使われていたが、次第にフェンスに括り付けて屋根や壁を作り、空間づくりに発展した。子どもたちはその中でイメージをふくらませ、タイヤや机、板を組み合わせてごっこ遊びを展開していた。紐結びが得意な子に結び方をお願いしたり、年上の子の姿を真似して挑戦したりする場面もあった。

タイヤや板を運ぶときには仲間同士で協力し、使いたい材料が重なった際には、それぞれのイメージを言葉にして伝え合おうとする姿があった。保育者は、子どもがどのように考えているのかを聞き取り、遊びの中で見られた工夫や発見を言葉にして共有することで、遊びの広がりを支えていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの自由な発想を表現できる用具や素材を用意することの大切さを改めて感じた。単に物を準備するだけでなく、大人自身も時には仲間として創意工夫を楽しむ姿勢をもち、また、必要以上に制止したり先回りしたりせず、見守りながら遊びや学びを支えていくことが求められている。

さらに、子どもの姿を職員間で共有し、保育の価値観や感覚をすり合わせることで、そして子どもとの対話を大切にすることが、遊びの発展や学びの深まりにつながる保育の実現には欠かせないと感じた。